

東北大学機械系

同窓会ニュース

第5号

東北大学機械系同窓会
 980-8579 仙台市青葉区荒巻
 字青葉 01
 東北大学工学部機械知能工学科内
 電話 (022) 217-6926
 FAX (022) 217-6926
 E-mail: dousou@mech.
 tohoku.ac.jp
 郵便振替口座
 番号 02270-8-11176
 名称 東北大学機械系同窓会
 印刷 笹氣出版印刷(株)

ドイツの印象

人々はワインやビールをよく飲む

高橋 道哉(機31)

平成十年三月末の退職を機会に、フランクフルトにいる息子の家族とブレームンで国際日本学園を経営している友人の家族との再会を楽しみに、妻同伴で、六月から八月にかけて、ドイツとヨーロッパ四カ国を旅行してきましたが、以下ドイツの印象について述べさせていただきます。

ドイツは緯度では北海道の北端以北にあり、訪れたフランクフルトの六月初旬は、日本の五月頃の陽気で緑が多く、色とりどりの花が咲いていて、心の安らぎを覚えました。しかし、七月のブレームンは、霧雨の降り続く肌寒い天気で、いかにも高緯度にあることを感じさせられました。

ブレームンに限らず全般的に、ドイツは一年を通して太陽にあまり恵まれないようで、そのため人々は陽光を南欧などに求めて、休暇をとるのでしょうか。赤ん坊は満一歳になるまで、佝僂病を予防するために、ビタミンDが与えられますし、男性の

半ズボン姿や、草原に上半身裸で寝ころんでいる姿をよく見掛けましたが、これらのことから、そのことが理解できました。

ドイツの一般家庭では、冬の暖房は不可欠で、そのための設備は完備していますが、夏の冷房設備は必ずしも完備していません。しかし、近年の異常気象で、これまで過ごしやすかった夏も暑さが耐えられないようで、息子の家では扇風機を買って使っていました。またクーラーのない車が多いのか、暑い時は車の窓を開けて、風を入れて運転している光景を見掛けました。温暖化の影響が夏の冷房をドイツでも必要としはじめていくようです。

ライン川では、遊覧船や石炭などを積んだ貨物船の往来が見られ、川が産業の一役を担っていることがわかりました。また、流域には古城が点在し、葡萄酒が広がっています。このワインは、ラインガウのリースリング種という白ワインで口当たりがよい。一方、フランクフルトのマイン川の南にあるザクセンハウゼンには、アップルワインで有名ですが、余りうまいとは思いませんでした。し

会費納入のお願い

同窓会は、会員皆様が入される会費によって運営されています。同封の振込用紙を使って会費納入をお願い致します(年二千円)。

かし、安いのを受けてか酒場は夜遅くまで賑わっていました。それにしても、人々はワインやビールをよく飲み、かつ、車を運転しています。取締りはなく、運転者の自制に任せられているようです。

ドイツのアウトバーンは、料金所がなく、工事中の所を除き速度制限もありません。二百キロとばす息子の車に乗りましたが、快適というよりも怖くて、手に汗を握りました。しかし、短時間で目的地まで行け、その分、ゆっくり現地の見物ができて便利でした。

フランクフルトの電車には、Sバーン(近郊電車)、Uバーン(地下鉄)と市電とがありますが、駅の入出札は無人で、自動券売機で切符を買って乗り、降りるときの集札はあります。従って無券乗車が可能です。フランクフルト市内は、ラッシュ時を除き三マルクほどですが、違反すると六十マルクを徴収されます。私も検札の現場に出会いましたが、もちろん、券を買って乗ったので、何事もありませんでした。ドイツに限ったことではありません

んが、町や村の中心には必ず教会があり、広場があり、樹木や畑の緑と家々のピンク色の屋根とが調和して、美しい景観を見せてくれます。フランクフルトでは、家々の壁や塀にカラーペイントのスプレーによる落書きが数多く見受けられたのが、ドイツの印象を少なからず悪くしたのは私だけでしょうか。

今回ドイツ、ヨーロッパ旅行は二度目で、一回目は五月でしたが、次回は収穫の秋に訪れて見たいと思っています。

(たかはし・みちや 元(勸)工業所有権協力センター 主席部員)

秘書嬢海外選考

先輩の三原則と私の基準

佐々木 久臣(精40)

大学卒業後、サラリーマン生活は三十四年になりますが、この間海外勤務が十二年に達し、いまだに更新中です。米国一年、ベルギー三年半、英国六年半、そして現在のポーランドでも一年になろうとしています。当地では、年間三十万台規模のディーゼルエンジン生産工場の建設をほぼ終え、従業員の採用と訓練も予定どおりに進み、今年六月の生産開始に向けて最後の調整を行っております。

さて、海外勤務で最初にお世話になるのが、現地人の秘書ということになるでしょう。日本では使い慣れない秘書というものに対し、初めて

海外勤務をされる方は、必要以上に期待を込めたり、あるいは重荷に感じたりと、様々な思いを持つかも知れません。ここでは、海外勤務地で、現地の秘書を、どのような基準で選んだら良いのか、諸先輩の経験を交え、ポーランドの現実の一片をお知らせしたいと思います。

秘書の選考三原則とは

私に「秘書の選考三原則」を教えてくださいましたのは、海外経験豊富な先輩で、もう十五年以上も前のことです。これによりますと、秘書としての必要な能力は当然ですが、①あまり美人ではないこと、②中年以上であること、③独身で子供のいないこと、ということでした。このような条件は、日米欧の先進国では、今では考えられないことであり、正に今昔の感といったところでしょう。

当時、海外経験豊富な先輩が、エコノミックアニマルの先兵として活躍していた時代には、この「三原則」は、理由は、説明するまでも無いとは思いますが、①美人でなければ、社内の男性から仕事中に邪魔が入る機会は少なく、従って仕事の効率も良くなり、②中年以上であれば、仕事の経験は豊富であり、③独身で子供が無ければ、急な残業にも良く対応してくれる、ということ、それなりに機能はしたのでしょう。

ベルギー時代の秘書も、英国時代の秘書も、私にとっては前任者から引き継いだ方々でしたが、偶然、「海

外経験豊富先輩の「三原則」に合う方々でした。これが理由とは思われませんが、当方の期待どおりの働きをしてくれましたし、その後も良い人間関係を保っております。

ベルギー時代の秘書は、すでに他社へ転職していますが、その後も手紙のやり取りのみならず、ベルギー出張時には、夕食をともし、お互いのその後の経過を話し合ったりする、良い友達です。英国時代の秘書とは、勤務地がロンドンから少し離れていることもあり、その後会ったことはありませんが、毎年年末には、クリスマスカードとともに、井戸端会議情報とも言える、職場の最新情報を送られてきますので、現地人社員の近況を、懐かしんでおります。

ポーランドの法整備は不十分

さて、このポーランドでの秘書の採用は、私にとっては初めての現地人秘書の採用となった訳ですが、ポーランドの労働法、労働環境、特に男女雇用機会均等の要求レベルがどのようなものであるのか（日米欧の常識の範囲で良いのか、あるいは、元社会主義国家として、特に考慮すべきことがあるのか）、全く予備知識がありませんでした。現地の弁護士に問い合わせてみましたが、「ポーランドは、まだ十分な法整備が成されておらず、必ずしも西欧と同程度に考える必要は無いが、早急に西欧化するであろう」との回答で、具体的な回答は得られませんでした。

そこで、部下（日本人）の現地人雇用への意識高揚のオンザジョブトレーニングの一環として、十五年前の「海外経験豊富先輩の三原則」を話してみたところ、曰く、「会社に来るのが楽しみになるような秘書を雇うべきだ」「来客に少しでも良い感じを持つてもらえるような秘書であるべきだ」「少しは職場に潤いを持たせるべきだ」、云々と、まずは低次元の反応があり、次いで、「そのような基準は差別につながりかねず、職務要件としてどうあるべきかを議論すべき」という、まともな意見も、当然ながら出てきました。

私は、「職場とナイトクラブを混同してはいけない」「秘書は職場の花」という考えが、セクハラの芽になるのだ」「あくまでも、経験、実力、やる気を重視すべき」と釘をさしておきました。しかし、他方では、ポーランドの労働法や労働環境を良く理解するために、雇ったばかりの人事部長に調査を命じました。

三原則も私の基準も反古となる

ところが、その後間もなく、ポーランドの特殊性により、「十五年前の海外経験豊富先輩の三原則」も、私の「秘書の選択基準」も、あえなく反古の憂き目を見ることになりました。

まず、ポーランドは、チェコ、ウクライナとつながって、ヨーロッパの美人の半月地帯といわれており、「十五年前の海外経験豊富先輩の三原則」を云々することは全く無意味であるとの現実に直面したのです。

次に、コミュニケーションの手段としての言語ですが、西スラブ語に属するポーランド語は極めて難解な文法を持ち、日本人が短期間にこれをマスターして仕事に役立てるとい

うのは極めて困難といわねばなりません。いきおい、英語に頼らざるを得なくなる訳ですが、ここにもポーランドの特殊性が立ちほだかります。一九八九年に民主化したばかりのポーランドは、社会主義時代の教育制度上、当時の第一外国語はロシア語であり、英語教育は重視されな

かったため、中年以上で英語を話せる人は、極めて少ないという現実です。若い世代は、英語の重要性をしっかりと認識し、勉強しておりますので、英語の能力の面からは、どうしても二十代の若い人に頼らざるを得ません。更に、現今のコンピュータ時代の秘書には、新しいソフトウェアにも柔軟に対応できる能力も期待致しますので、どうしても若い方が有利となります。

以上のような訳で、現在の私の秘書は、美人で、若くて、やる気が旺盛で、ただし、経験はただ今積み上げ中（この意味では私の「秘書の選択基準」には合致していませんが）のポーランド人女性ということになりました。

ポーランドは親日国です

ポーランドは、トルコ、フィンラ

ンドと同様に、「日露戦争に勝った日本」という理由で、大変な親日国ですが、いまだ日本企業の投資も限られており、日本人には馴染みの少ない国だと思えます。しかし、スラブ語圏に属するといえ、カソリック文化圏に属しているため、西欧の一員として見た場合、それほど違和感はありません。

欧州へのご旅行の際は、ぜひポーランドへ足を伸ばしてみてください。（ささき・ひさおみ いすゞ自動車（株）取締役兼いすゞモータースポルスカ社長、ポーランド国クラコフ市にて）

日本とアメリカと比べて

— ロスアンゼルスで感じたこと —

荒井 尚英（精鋭）

ズケズケと自分を主張する

アメリカのコンサルティング会社に出向し、ロスアンゼルスでビジネスコンサルタントとして働いています。今や海外に出向くことはおろか、住むこと自体も以前ほどの珍しさはなく、特にここロスアンゼルスでは数多くの日本人、ビジネスマン、留学生を見掛けます。これまで何度出張で訪れていたアメリカですら、随分と勝手が分かっていっているつもりになっていましたが、実際に住んでみると言葉以前に文化や社会システムや仕来りの違いにいちいち悩まされ、最初は一つするにも日本の倍の時間がかかり随分難儀な思いを

しました。それも今や大抵のことは慣れつこになってしまいましたが、一方でズケズケと自分を主張することも覚えたのでしょうか、ちよつとした事でもすぐにクレームを付けるようになってしまった気がします。

他人を干渉しないアメリカ

日本とアメリカでは何から何までその国ぶりが違いますから、何事も単純な比較は出来ないものだと思いますが、感じた違いを一つ上げるとすれば、アメリカでは日本程には他人を干渉しないということです。これは社会の仕組みそのものに及ぼす影響がとても大きいことだと思えました。例えば、アメリカ人に比べると日本人は創造性が劣る等とたびたび言われることですが、私自身は決してそうは思わないのです。日本人も相当、というか、むしろ生真面目さと高い基礎能力とがあいまって随分と創造力自体には恵まれているとすら感じます。しかし、アメリカでは様々な発想が飛び交う中でいち他を干渉しませんから、可能性の芽が摘まれませんように思えるのです。ケースが多いように思えるので、ね。これが日本だと、少しでも気になる事柄があると大いに干渉し、あれやこれやともみくちゃにして最初のコンセプトもどこへやら、結局は中庸で極めて常識的な面白味のないものになってしまふ。そういった事が実に多いのではないのでしょうか。つまり、創造力に差があるのではな

く、単に芽をほおって置いて育つ余地があるか、それとも摘み取ってしまいか、もみくちやにしてしまっているかの違いに過ぎないと感じられてならないのです。これでは何事もスピードが速くなり、先行き不透明な現代においては、競争力に大変な差がついてしまうとさすがに危惧してしまいます。つまり、日本の国力自体が相対的に衰えざるを得ない由々しき状況に向かっていると思わす。

個々の才能を開花させる大学へ

世界では経済が国境を軽々とまたぎ、人も技術も急速にクロスオーバーして行きます。最近では優秀な人材の国外流出も見逃せないレベルに達している感じがしてきました。社会人レベルで急速に進行しているこの現象は、意外と早いうちに大学の学生レベルに波及するでしょう。つまり、日本の大学などに入っても出てくても)全く意味を成さないから大学からして海外へ...という事態になりかねません。最近の若者はその退廃ぶりばかりがクローズアップされていますが、どうして、真剣に自分を、そして将来を考える若者は確実に増えています。大都市にある遊びに囲まれたレジャーランドとしての大学から、まさにアメリカのように「学ぶのに最適な大学」へという、原点復帰でもいうべき動きが活発になるかもしれません。東北大は日本では東京ではなく、遠く離れた仙台にあ

る、と捉えられがちですが、世界から見ればそんな地理的差異は問題になりません。むしろ、仙台にあることが素晴らしいロケーションとしてのアドバンテージにすらなるでしょう。アメリカから見れば、日本のお家芸「技術・製造」もその輝きに陰りが訪れていると感じざるを得ない昨今、仙台の地で日本国内の雑音に惑わされず、常に世界を見据えて個々の才能を開花させる大学であつて欲しいと願わざるを得ません。

(あらい・なおひで (株)リクルー
ト 金融情報部マネージャー)



大学を卒業して仙台を離れもう八年が過ぎました。お世話になった先生、先輩方には大変ご無沙汰いたしました。この紙面をお借りしておおむねと共、かつてのご指導に感謝申し上げます。

さて、学生時代、社会人になってからも含め、海外旅行一回(台湾)、海外出張二回(アメリカ)の海外素人の私が、上司からアメリカよりちよつと南で暖かい所へ行つてくれるか?と打診されたのが二年前。その後結局、想像もしなかったメキシコへ赴任して早二年足らずが過ぎました。

最初にメキシコシティに降り立つと、鼻をつく排気ガスのおいと

息苦しきを感じ、おまけに火山灰混じりの雨に打たれるはで、散々な印象でした。もともと、ご存知の通りメキシコシティは人口二千万人以上の世界一大きな都市で、標高二千二百mにあるカルデラ湖を埋め立てて作られた盆地に位置します。そこにVWビートルに代表されるボンゴツ車が多く走り回るため、排気ガスがたまつてしまうようです。日本では例えば、長野県の高原に東京二十三区並みの量の車が走っていることになりす。

現在は、アグアスカリエンテスという街に住んでおりますが、最初の一年は、メキシコシティに近いクエルナバカという稼動して三十年余りの日産最初の海外拠点である工場のある街に住んでおりました。ここは、基本的にはメキシコ人によって管理されている工場で、日本人は五人しか居ませんでした。おかげですつかりメキシコ人ペースに慣れてしまい、グアスタ、マニャーナ、つまり日本語で言えば、また明日にしましよう」といった感覚で仕事をするので、どうしても進捗が遅れがちになってしまいます。ただ、ものは考えようで、これも家族を大切にする文化からすれば自然なのかもしれせん。

ここクエルナバカは、臭くて、危なくて、息苦しいメキシコシティから週末のみ金持ちがやってくる別荘地でもあります。週末になると突

然、白人の人口が増え、メキシコシティナンバーの高級車が増えるのです。確かに、メキシコシティからたった七十kmしか離れていないのに、気候は常春、一年中花が咲き乱れているので納得出来ます。アメリカからのリタイヤ組もかなり移住して来ているようです。ここに住んでいる限り、サボテン、砂漠のメキシコのイメージは感じられません。ところが、現在住んでいるアグアスカリエンテスは、いかにもメキシコといったサボテンや背の低い木、砂漠のような風景が広がるちょうどメキシコの中央に位置する都市です。

ここには、まだ稼動十年足らずの日産圏で最新の車両工場があり、更に各日系部品メーカーのきなみ進出してきています。おかげで、三百人を超す日本人(含む家族)が住んでおり、メキシコ二つ目の文部省認定の日本人学校が設立されています。また、日本食材も手に入るの、ほとんど日本と変わらない生活が出来てしまいます。個人的には、あまり日本人社会が大きいのも窮屈ではありません。

先に、最新工場と申し上げましたが、やはりここはメキシコ。一見、豊かにも思えますが貧富の差が大きく、それほど物が豊富に何でもそろうという訳には行きません。工場設備を修理する際にも、予備部品等が無いことがよくあります。そんな時は工場加工して作ることもありま

す。かなりメキシコ人たちは器用なようで、ボンゴツ車も自分たちで部品を作つて修理して二十年〜三十年前の車が平気で走っているのです。現に、かつての日産車「ダットサン」と呼ばれていたマニアなら泣いて喜びそうな名車が、いまだに現役で走っています。生活の中でも、よく自家製のものを見かけます。特に、家もレンタとセメントを使つて自分たちで造つてしまうようです。もちろん金持ちは城のような屋敷に住み、立派なアメ車を何台も持っていたりします。でも、この貧富の差など関係なく、皆、陽気で、歌つて踊るのが好きなのです。こんなメキシコで、だんだんメキシコ人化していく自分がこわいの頃です。

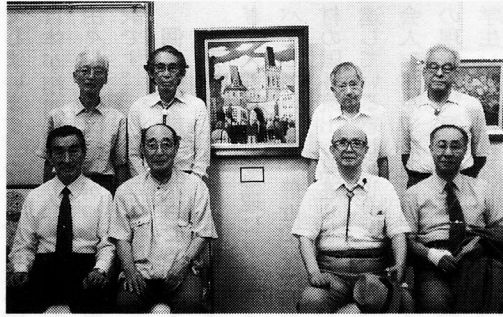
(しばた・なおき 日産自動車(株)生産技術本部、メキシコ日産出向中)

同期会ニュース
十八(とはち) 会便り
(機械十八年卒同期会)

平成九年二月横浜で開催した折今年(平成十年)の同期会は植草君の油絵を見ながらやろうということになり、植草君が幹事で開くことになった。五月始め植草君から、彼が出品する二高尚志美術展(有楽町、交通会館)の会場に集まって、絵を鑑賞してからサッポロライオン銀座七丁目店でクラス会をやるという案内をいただき、早速出席の返事を出した。

ところが、五月下旬、内崎君から突然電話があり、植草君が肝臓ガンで市川の病院に入院しており、見舞いに行つてクラス会の幹事を引き受けることになったとのことであった。その二、三日後植草君が逝去され、五月三十一日(日)西船橋会館で葬儀が行われたが、あまりの急逝にただ驚くばかりであった。

八月六日(木)十二時に二高美術展に参集して出品してある植草、野口、好川三君の油彩を鑑賞し、植草敏之君の遺作「プラハの雑踏」の前で写真を撮った。



十八(とはち)会(機械18)、平成10年8月6日

前列左から 中西正雄、内崎忠、関戸義人、柳沢和男
後列左から 好川紀博、石川勝次郎、牧貞夫、野口伸
ほかに、直接クラス会場に行った者 杉浦尚(合計 九名)
その後クラス会場に移動したが、その前日夕刻、会場にしていたライ

オン銀座七丁目店にボヤがあり、担当者から幹事に会場が使えなくなつたとの電話があり、相談の結果、急遽会場はライオン小松ビル店に変更となつた。

クラス会は、十三時から約三時間であったが、これまでに物故された植草君をはじめ九名の方々に黙禱を捧げて始まった。幹事から植草君ご逝去の経過や、今回出席の予定であった奥様が旅行先の郷里で体調を崩されたことなどの報告があり、その後お互いの近況報告やら、健康の話など時を忘れて歓談をして、最後に写真を撮つて、来年の元氣な再会を約して解散した。それにしても今年のクラス会は、思わぬ突発事件が続いて、忘れられないクラス会となつてしまつたようだ。

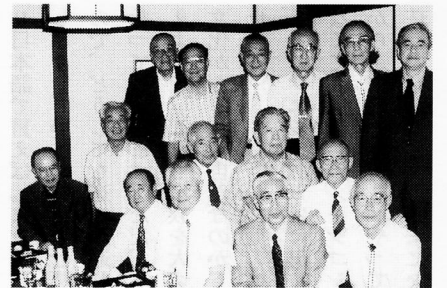
(好川 紀博(機18))

流れ会 便り

(航空二十年九月卒同期会)

学科名と卒年次を並べると長つたらしく仕様が無い。そこで三字位の会名を級友から募つたら、航の一字を入れた案もいろいろ出たが、結局田辺昇一君発案の「流れ会」に決まった。「流れの持つマイナスのイメージは採らず、①我々は流体力学を学んだ、②これからは自然に逆らわず生きて行こう、という会名である。十六年前の岩室温泉のクラス会で決まつたように思う。

同窓会総会の後、数人の級友との



流れ会、平成11年6月12日、有楽町さがみにて

コーヒを飲みながらの集いはあったが、平成七年五月九日に秋保の茶寮宗園で開いた卒業満五十年記念クラス会以後はしばらくとだえてしまった。仙台の小林君の年賀状に毎回「今年は是非クラス会を」との添え書きがあり、同窓会総会とは切り離し別の日にとつて、ようやく四年ぶりに集まることにした。
平成十一年六月十二日(土)昼、有楽町ニュートキヨーさがみ。七、八人來れば御の字と思つていたら、十五人も出席してくれて、平成四年五月十三日の仙台・国分町・天繁以来の大盛会となつた。久しぶりの集まりということ元氣なうちに少しでも会つておこうという皆さんの気持ちの表れか。しばらく会わなくてお互いに名前の分からない人が多く「君は誰?」と質問が交わされ大笑い。有楽町で開いたことで新幹線や特急利用の人には便利だったらしく、仙台から三人、新潟・名古屋・平からそれぞれ一人ずつの参加が

あった。欠席通知のハガキの中に「輝かしい老境を楽しむべし。クラス会をひんぱんに聞くべし」と書いてあった。鈴木稜君が四月十八日死去された。ご冥福を祈る。

(大池 弘一(航20))

機新会 便り

(機械二十八年新制卒同期会)

同窓会ニュース第四号でも紹介しましたが、我々昭和二十八年新制大

学機械工学科の第一回卒業生は、毎年総会を兼ねて一泊旅行をして旧交を温めています。平成十年は十月二十一・二十二日の二日にわたつて、ひたちなか市の「ホテルクリスタルパレス」で二十五名の参加者をえて開催されました。

今回の総会その他の行事については、ホテル、総会会場、見学・観光先の手配すべてを、水戸在住の稲葉喜西、山部の三君のお世話になりました。

総会出席者は二十五名で次の通りです。

阿部、荒井、石山、板橋、稲葉、岩田、榎本、金生、川口、河内、菊田、塩谷、千葉、塚本、中村、長倉、野尻、野田、平山、星沢、細井、松尾、山中、山部、吉田(稔)の各君。

総会後の懇親会も盛況で、空けたアルコール類がビール二十本、日本酒(銚子)五十本、一升瓶一本、焼酎二本、ウイスキー六本(?)で、翌日まで少し残りましたが、皆さん

だまだ元氣なのに幹事は大いに驚きと尊敬を感じました。

初日の午後はいにくの雨でしたが、希望者十六名で原子力研究所の他を見学しました。見学先は(社)茨城原子力協議会原子力科学館、核燃料サイクル開発機構東海事業所、(財)温水養魚開発協会、日本原子力研究所東海研究所JRR-3管理棟の四箇所でした。

見学先では、いずれも親切な案内と懇切丁寧な説明とがあり、機新会会員ということで受け入れ側も気を使つてくれたのだらうと思われました。

核燃料サイクル開発機構は、十年九月までは動力炉・核燃料開発事業団の名で、いろいろトラブルのあつたところでしたが、火事を起こした建屋なども教えてくれ、また後日案



機新会(機械28)、平成10年10月21日、ひたちなか市にて

内嬢からわざわざ自宅に挨拶状をくれるなど、随分の気の使いようでした。

JRR-3では東大などの外、東北大の実験設備が多かったように見受けられました。

翌二十二日は、希望者十七名でホテルのマイクロバスで八時三十分から水戸市内の観光に出掛けました。

途中八月末の台風で氾濫し、洪水に見舞われた那珂珂川流域を通り抜けましたが、テレビ中継で放映されたホテルの周辺の護岸の一部が欠けているのを見て、流域の氾濫も当然と思われました。なお、このホテルはその後間もなく閉められるということでした。

まず弘道館を訪ね、また回りの梅林や孔子廟、鹿島神社、八卦堂、学生警鐘などを見て、次に彼の有名な倍楽園に行き、公園内を散策しながら昨夜の残りの酒を飲み干し、弘文亭に登って水戸の殿様の気分を少し味わいました。次いで茨城県立博物館を訪ね、光園公ゆかり(?)の印刷弁当を開いて昼食とし、終わって館内を見学しました。博物館を出ての記念写真撮影には館の可愛いお嬢さんにも中に入って頂きました。博物館から、NHK大河ドラマのロケ地にもなった「徳川慶喜展示館」を訪ね、テレビのためとは言え、数億円も掛けたというセットなどを見ました。十年の初めから十一年三月までの限定展示館で、入場者百万人

予定のところ、既に百万人を超える人が訪れたということでした。案内者がボランティアでやっている聞いて、水戸の人の徳川慶喜と大河ドラマへの思い入れの大きさをつくづくと感じさせられました。

会員諸兄もそろそろ七十歳になるので皆少し時間に余裕があることだろうと、今回はウィークデイに総会を開催しましたが、学校の先生(大学の教授)などやその他まだまだ元気で現役の人もおおり、仕事のために欠席された人が多かったので、十一年度は十月の週末に宮城県の鮎川、金華山で総会を開くことにしています。(千葉 孝男(機28新))

精密八九会便り
(精密28・29年卒同期会)

我々は、航空学科が、戦後の工業力学科を経て、新制大学として新発足した精密工学科の第一回生であるが、旧制から新制への切り替えに伴って、卒業が昭和二十八年と二十九年とにほぼ二分されたユニークなクラスであり、会の名称も、ここに由来する。

このクラスは学制改革の大波をまともにかぶった年次で、まず、入学したばかりの旧制高校を一年で辞めさせられた人達と、新制高校最初の卒業生とが、一緒に、昭和二十四年に新制大学最初の学生となった。一方、旧制高校と旧制の工専の最後の卒業生が、旧制大学最後の学生とし



精密「八九会」、1998. 12. 5、東京

が色々な面に見られた。我々のクラスはバックグラウンドや年齢の点では少し幅があったが、人数も少ないせいか、雰囲気には、それらを越えた一体感のようなものがあつて、まともよりは良かったと思う。それは今日でも続いており、毎年秋頃には集まって、近況を語り合っている。首都圏に住む人が大多数なため、会合はほとんど東京であるが、時には仙台や名古屋になることもある。

最近では、ほとんどの人が七十歳の時にさしかかったが、生き方はさまざまである。大勢の社員を抱える企業の経営者から、一匹狼の技術者、学者、自営業など、まだまだ現役で活躍する人も多い一方で、功成り名遂げて悠々自適、左うちわの人も増えたようである。七十歳を越して勲章をもらう人、企業の名誉職、宮仕えの気兼ねなく趣味に打ちこむ人、郷里で、リスニング・ルーム付き豪邸の生活をエンジョイする人、別荘で、独創的(?)農法にチャレンジする人など、多士済々である。しかし残念なことに、志半ばで鬼籍に入った仲間もすでに五名を数える。いきおい、関心の対象も、今後ますます健康問題が重みを増してくると思われる。このように、我が「八九会」では、まだ忙しい人も多いため、一度のたびに主であるが、そのうち、何か他の楽しみも持てたらと思っています。

昭和二十五年に入学した際、収容しきれなかった人達は、翌年、編入試験を経て新制大学の三年生に編入された。精密工学科の第一回生二十七名は、教養部からの進学者十五名と旧制からの編入者十二名の混成であった。そして昭和二十八年三月には、旧制大学最後の卒業生と、新制大学最初の卒業生が同時に卒業したが、編入者については、新制度の単位不足とかで、当初からの約束通りに卒業は一年繰り下げられたわけである。もともと、その一年間は、各研究室に配属されて、いたって優雅な生活を送ったようであるが。

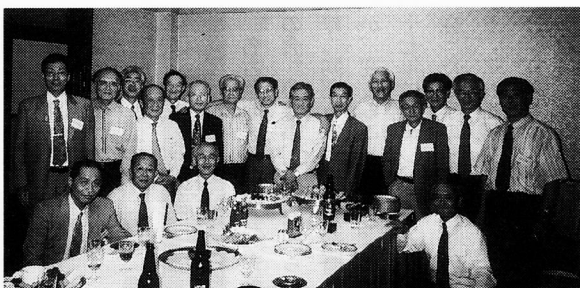
(鈴木 昭夫(精28))

機械三十一年卒同期会

歳を取ると、昔のことが鮮明に思い出される。四十数年前の東北大学機械工学科の日々はまるで昨日のことのような気がする。お世話になった先生方、級友、製図室、階段教室、実験、演習それぞれが限りなく思い出される。

というわけで、我々、昭和三十一年卒機械工学科の級友も数年前から、ようやく集まり出した。平成八年、卒業後四十年ぶりに初めて集まった時、出席者の一人はこう言った。

「一目見た時は、みんなのあまりの変わりように驚いた。しかし、一人一人の近況報告や、昔の話に夢中になって三時間経ったら、みんな昔のまま、あまりの変わりの無さに驚



機械31年卒同期会、平成10年7月25日、東京神田学士会館にて

いた」
今回、第二回の同期会は、平成十年七月二十五日、前回同様、東京神田学士会館で開催、北は北海道、南は九州から十九名が集まり、うち四名は卒業後四十二年ぶり初めての出席。これまた前回同様、三時間経つたら、みんな昔のまま、あまりの変わりの無さに驚く次第と相成った。

今回は平成十一年秋仙台で開催と決定、久しぶりに訪れる仙台は、学校は、どんなに変わっているのか。同期会の後で、抜山四郎教授のお書きになった随筆集を読んだ。同期会の幹事長西尾宣明氏からお借りしたものだ。これには抜山教授の名講義（脱線雑字の部）が満ちあふれている。随筆をお書きになったのが七十五歳前後、旅行に、テニスに、学術講演にと奥様と共に誠にさつそうと活躍しておられた日々が目に浮かぶようだ。

我々も歳を取ってきた。しかし、まだまだ抜山教授はじめ、昔の恩師・前川道治郎教授、沼知福三郎教授、松山徳蔵教授、玉手統教授、武山斌郎教授……の先生方に見習いたいところが多い。

心身ともに健康に、進取の心掛けと、興味を失わず、あつと言う間に過ぎてしまう日々を充実したものにし、存分に、エンジョイしたいと願っている。

(六戸 俊夫 (機31))

機械三十三年卒同期会

六十歳を越えると旧友が一層懐かしくなるのだろうか。卒業して四十一年になる。

毎年行っている同期会には、参加者が年々増えているようだ。

いわゆる定年を過ぎた世代であるが、新たに独立して仕事を始めた人、第二の会社に移った人、引き続き経営のトップとして活躍している人、悠々自適の生活を始めた人、様々なスタイルが見られるようになった。

さて平成十年の同期会は十一月七日浦安のホテルで開いた。薄もやの海の向こうに富士山を望む静かな部屋で、食事をしながら再会を喜ぶという設定である。参加者は二十一名、夫人六名、計二十七名であった。所用のため急遽欠席した三名は、いずれも大企業のトップとして活躍中の諸兄であったが、現在の厳しい経済情勢の一端を垣間見た思いであった。

会は再会の慶びの乾杯から始まり、欠席者からの短信の紹介、ほとんどの欠席者が、近況、欠席の事情等を記してしてくれたことは幹事として大変嬉しい。

出席者のスピーチは、自分の近況、会社の宣伝、大学のこと、子供や孫の話、健康問題のことなどである。今回はご夫人方からもスピーチを頂戴したが皆さん慣れていて大変上手。飲みながら、食べながらの予定

の三時間はアツというまでであった。アルコールもホテルと相談して推定した予定量の倍であった。大木氏の恒例となった「美しき天然」のメロデーにのって始まる捕鯨船長云々の独演に一同大笑しつつ機械科時代の思い出懐かしい青春に還ったひとときであった。

三十三年同期会五十一名の現在の居住分布は東京近傍三十名、東北地方六名、名古屋以西十五名となっている。従って同期会も東京近傍で開かれることが多い。ちなみに最近五年では、横浜中華街、東京（隅田川遊覧と夜の会食）、東京帝国ホテル、山形蔵王（一泊）、浦安ホテルとなっている。



機械 33 年卒同期会、平成 10 年 11 月 7 日、浦安のホテルにて

前回の蔵王は一泊でもあり大盛會であった。夫妻での参加者も多く山形駅からのタクシー利用が集中したためか、小生の乗ったタクシーの運転手君曰く

「今日は何の国際会議ですか？最近蔵王で開かれる会議多いですよ」

「うん山形大の先生の世話で機械関係の会合なんだ」

「大変ですね、ご苦労様です」
リアシートには、それらしき雰囲気松山氏夫妻がゆったりと座っていたのであった。

強い硫黄臭の温泉に浸った後のくつろいだ宴会、貸し切りラウンジでの深夜に及んだ二次会は夫人方も加わり、幹事の今野教授、森氏のお骨折り、笑みを断やさない両夫人の細かな気配りが雰囲気盛り上げ、心に残る楽しい同期会となった。

翌朝は紅葉の蔵王登山を予定していた人が多かった。京都からリュック、登山靴で来ていた糸井氏は、十月の蔵王の天気には、いかんともしたがたく、あきらめ、次回改めてということになったようだった。

会の終わりに次回の幹事を決めることになっている。それで今回は蔵王の名幹事今野教授と郷里の村山市に帰って料亭の主に納まった森氏のコンビにまたまたお願いする次第となった。毎年というわけにはいかないだろうが、二〜三年ごとに一泊できればいいなと思っている。初め

て幹事役を分担したが、結構大変だなと思う反面、やれてよかったというのが感想である。

(中戸 賢三 (機33))

精密三十七年卒同期会

名古屋地区の同期会、青葉繁れるの会」の幹事、小川君からの呼び掛け、同期もほとんどが還暦を迎えたか、迎えることになる。また昭和三十七年に卒業し、ちょうど三十七年経った数字の語呂合わせの年でもあり、これを機会に一度集まるのもエンでネエンすか」が発端となり、機械系同窓会総会への出席を兼ねて仙台に集まることとなった。

遠くは神戸、金沢からの参加もあり、同期三十九名のうち総勢十三名が集まった。

同窓会総会の懇親会では、畑山先生のご講演「香りの心理」さながら楽しさの盛り上げ、ローズの香りを出席者に振りまき精密三十七年卒の存在感を高めた。仕上げは昨年に引き続き、広い舞台上に全員肩を組み、千木良君のいう還暦祝い兼冥土への土産(?)にのり、青葉萌ゆるこの陸奥」を合唱させて頂きました。参加者全員のご唱和にもなり、司会他皆様の寛容に感謝した一刻でした。
更に、酒井先生、谷先輩、渡辺先生のご参加を頂く了解を得て、一緒に気分の高ぶりと和彊一致の気持ちのままもう一つの目的、同期会場大観楼に向かいました。

人見君の手配よろしく広いお店は貸切りに近く、早速の乾杯で同期生全員が元気であり、久しぶりの大集合を感謝し合った。気分は学生時代、仙台の青春時代へと戻り話は弾んだ。話題は広く現代社会・学校問題から戦前戦後時代、高度成長期までのことにも及んだ。その中でいくつかの記憶に残る話題を記す。豊かなさは何か、ヨーロッパが規範か、比較は世界の中で真に位置づけを、ポストドクと旧特別研究生制度、体で仕事、現場の仕事、個性・独自性、若い人からの議論を起す空気の薄さ、解ること、解らないことの認識と聞き上手、敗戦の予測とその前後のこと、先生達のこと、工力卒先輩の頑張り、自分達の成長と世の中の変化、進歩が合致、親父としての教育、何のために為すのか、IT社会到来、若さなど多彩な歪が傾けられそれぞれに想い出の一滴を注ぎ、時間の過ぎるのも忘れる程であった。もちろんその間にも色香のある話もチラホラと、これも大先輩ご三人の同席のお蔭かと長時間のお付き合いに感謝しました。同期

もそれぞれがマイペースに近い生活になり、話す話題も思いやりとキリットさが調和しているように感じられ、精神が健全であれば、写真のようににまだまだ若い身体・風貌がそろうものと確信した一夜でした。それ以外では時間を惜しんでの仙台散策と昔馴染み、学校等を訪ねての懐かしい旅程を過ごした。また近い時期に日本の地理的中心部あたりでやるのもエエンでネエンスかの声を伝えて、次回を期待して筆を置く。

平成十一年度通常総会予告

平成十一年度通常総会は平成十二年五月二十日(土)、東京のアルカディア市ヶ谷(旧私学会館)にて開催されます。多数会員のご出席をお願い致します。

平成十年度通常総会報告

(敬称略)

平成十年度通常総会は、平成十一年五月十五日(土)、仙台の宮城第一ホテルにて開催された。

出席者は、機械三十六名、機械II八名、精密系三十七名、学内知能一名の計八十二名であった。

第I部 総会の行事(十五時—同三十分) 総合司会の山本悟(機59)

が開会を宣言して、最初に酒井高男(航19)が会長挨拶を行い、仙台での開催にもかかわらず、多数の同窓生が出席してくれたことに感謝の意を述べた。

引き続き、酒井会長が議長席について議事に入った。

第一号議案

「平成十年度事業報告」

「同 右 出版事業報告」

第二号議案

「平成十年度決算報告」

「同 右 監査結果報告」

を各担当役員がそれぞれ報告を行い承認された。

第三号議案

「役員改選」

諸般の事情による一部役員交代



酒井会長の挨拶

が提案され承認された。新任の役員は次の通りである。

(新任)

庶務幹事 江村超(精39)、会計幹事 橋田俊之(機55)、編集幹事 厨川常元(精54)

第四号議案

「平成十一年度事業計画案提示」

「同 右 予算案提示」

を各担当役員が行い、それぞれ承認された。当初予定されたもの以外には議題は無く議事は予定通り終了した。

第II部 特別講演(十五時三〇分—十六時四十五分) 今回は新しい

試みとして、同窓生でない方に機械あるいは工業とは異なるテーマで講演していただくことにした。



畑山教授の講演を聴く出席者

江村超(精39)が講師・東北大学文学部教授畑山俊輝氏を紹介した後、「香りの心理」と題して講演が行われた。研究の動機と背景に続いて、人間が香りから受ける感情の分類や快適感を評価する尺度などに関する興味深い内容がOHPを用いて分かりやすく説明されたので、予定された時間が短く感じられた。終了後の質疑応答に加えて、懇親会でも講師を囲む話の輪が続いた。

第III部 懇親会(十七時—十八時三十分) 細谷智二郎(精54)が司会を担当して、酒井会長の開会の挨拶、武山斌郎(機21)の挨拶ならびに乾杯で開宴した。

ひとしきりの歓談の後、大学職員を代表して加藤康司(機41)が機械系の現状を説明し、高橋清久(航20)が先陣となってテールスピーチを開始した。青柳幸四郎(機35)が最近の雇用の状態を話したのに続いて、千木良賢作(精37)、坪内邦良(機II 43)、大崎博之(機55)がそれぞれ



武山副会長(左)と渡辺幹事(機47)

会員の訃報 (敬称略)

ご逝去を悼み、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(平成十年九月、同窓会ニュース第四号 発送事務局で入手したものを掲載しました。)

根来祥三郎 (機8)	10・9・10
伏見 功 (機14)	10・5・3
齋藤 俊夫 (機16・12)	10・7・6
新井 善志 (機17)	10・11・12
坂東 正義 (機17)	10・8・31
植草 敏之 (機18)	10・5・29
後藤 志朗 (機22)	11・1・13
磯貝 英司 (機25)	10・10・28
細田 清 (機26)	10・9・29
齋藤 邦雄 (機27)	10・5・8
中村 昭一 (機28旧)	11・1・1
阿部鉄太郎 (機34)	10・7・12
小原 充 (機36)	11・2・14
上坂 常磐 (航20)	10・11・18
鈴木 穰 (航20)	11・4・18
早川 重雄 (航20)	10・7・18
横山 亨 (航20)	10・11・17
鈴木 重睦 (工力21)	10・12・2
新里 賢司 (工力22)	9・11・7
福田 良 (工力22)	10・7・14
菅野 弘宜 (工力27)	11・2・25
後藤 進 (精32)	10・9・14
安達 公道 (精34)	11・4・15

会員死亡の時、氏名・学科名・年次・死亡日・住所をご連絡下さい。會長名の弔電を差し上げます。

(連絡先)

東北大学機械系同窓会 洞口明子
電話・FAX 〇二二二一七一九二六



東北大学学生歌をリードする精37のグループ

の年代・学科を代表して挨拶した。

宴もたけなわとなる中で東北大学学生歌の歌詞が配られ、壇上で肩を組んでリードする精37グループに導かれて「青葉もゆるこのみちのく」を全員で唱和し、会場の盛り上がりはその極に達した。
同期生との語らいがつきない懇親会であったが、齋藤勝政(精31)による締め挨拶と万歳三唱をもって盛会裏に終了した。

研究会見学 (十一時―十四時三十分)

総会開催に先立ち、昨年末に完成した機械・知能系共同棟内の九研究室とベンチャービジネスラボラトリーが公開された。移動直後で必ずしも万全の準備ができなかったが、職員と学生が説明にあたり、これらの機械系のシンボルとなる研究棟を同窓生に見ていただいた。



東北大学学生歌を斉唱する会場スナップ

編集後記

ご執筆の皆様は厚く御礼申し上げます。皆様のご熱意により予定ページをオーバーしてしまいました。掲載できなかった三編は次の通りです。

①大樹会卒業五十周年記念クラス会報告 (大樹会は昭和二十年機械工学科入学生及び同二十三年同科卒業生で構成されている会です)

②幻のゲッチャングを訪ねて ― 工力二十三年卒同期会報告(渡辺真(工力23))

③海外駐在始末記・その二(田嶋忠志(機33))

いずれも次の同窓会誌第四号に掲載の予定です。その他、好川紀博(機18)、野田孝男(精37)両氏の投稿原稿も予定に入っています。

事務局より

◎同級会(同期会)ニュース(報告記事)の原稿を投稿して下さい。字数八百字―千字位、記念写真一葉といっしょに。封筒に原稿在中と明記のこと。

(送り先) 980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉01 東北大学工学部機械知能工学科内 東北大学機械系同窓会事務局 洞口明子
Tel/Fax 022-217-6926, E-mail: dousou@mech.tohoku.ac.jp

◎同窓会誌にご投稿を! テーマ自由。約二千字。封筒に原稿在中と明記のこと。送り先 右に同じ。

◎住所変更の場合、必ず新住所をお知らせ下さい。同時に旧住所の最寄り郵便局で新住所あて回送手続きをとって下さい。
◎海外に駐在される方は、駐在先の住所を連絡して下さい。帰国後は直ちに現住所をお知らせ下さい。(連絡先は上の段にあります)

訂正 前号(同窓会ニュース第4号)6ページ上段7、8行、写真説明中左からの順に誤りがありました。山田、永久保、千木良……は永久保、山田、千木良の誤りです。訂正します。

平成10年度収支決算

自 平成10年4月 1日
至 平成11年3月31日

収入の部

費目	予算額	収入
前年度繰越金	¥9,720,765	¥9,720,765
会費	¥7,000,000	¥6,948,220
広告収入	¥300,000	¥509,370
総会会費	¥800,000	¥986,000
銀行等利息	¥8,000	¥6,474
合計	¥17,828,765	¥18,170,829

支出の部

費目	予算額	支出
事務経費	¥60,000	¥83,154
会誌発行費	¥1,000,000	¥1,097,355
ニュース発行費	¥400,000	¥390,096
封筒等印刷費	¥800,000	¥277,199
発送費	¥1,900,000	¥1,598,885
総会開催費	¥800,000	¥893,941
各種手数料	¥60,000	¥108,155
東京事務所活動支援金	¥300,000	¥300,000
卒業生祝賀会支援金	¥200,000	¥200,000
講演会開催費	¥100,000	¥0
人件費	¥1,800,000	¥1,850,000
予備費	¥900,000	¥33,315
次年度繰越金	¥9,508,765	¥11,338,729
合計	¥17,828,765	¥18,170,829